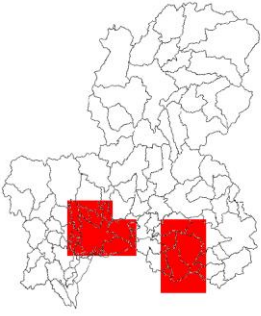


ウンヌケモドキ	<i>Eulalia quadrinervis</i> (Hack.) Kuntze	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:準絶滅危惧)		イネ科
選定理由	草地、裸地環境の減少などにより、生育地の減少が著しい。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	稈は直立し、高さ60-100cm、基部は無毛で光沢のあるりん片状の鞘に包まれる。葉身は長さ10-30cm、幅3-7mm、葉面に短毛が生える。花序は掌状に総を出す。包穎の背面には軟毛がまばらに生える。	
生態的特徴	イネ科の多年草。花期は9-11月。日当たりのよい草地、他の種が生育できないような裸地、尾根筋や谷戸(やと)、湧水湿地の周辺などに生育している。乾燥に強く、ススキやカリヤスと同所的に生育していることがある。	
分布状況	本州中部地方から九州に分布し、朝鮮、中国大陸、東南アジア、インドに分布する。岐阜県では、県南中部と県南東部にごく稀に見られる。	
減少要因	近年ベッドタウンとしての宅地開発や工場用地の造成、道路建設が顕著で、生育する環境そのものが失われつつある。また、自然遷移の進行による草地や半裸地の森林化、農業従事者の減少による里山の草地の減少。	
保全対策	里山の草地を定期的に草刈りするなど、草地環境の保全を積極的に行う必要がある。また、大規模な宅地造成や道路建設などの工事の回避。	
特記事項	ウンヌケモドキは全体がウンヌケによく似ることによる。	
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅲ 保育社 1964 日本の野生植物草本Ⅰ 単子葉類 平凡社 1982 増補日本イネ科植物図譜 平凡社 1993 まもりたい静岡県の野生生物 植物編 静岡県 2004	

文責:福岡義洋